

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西浦和小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。
思考・判断・表現	学習スタイルの定着が見られるようになってきたが、基礎学力の定着に個人差が見られた。R7年度には、ドリル型の学習の時間を増やし、基礎学力の定着を推進していくために15分の朝学習等の時間を活用して増やしていくようにする。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 ＜指導上の課題＞ 児童が自らの学びを振り返る時間を確保できるように学習過程を見直す。	⇒ 授業中に児童自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。【毎時間設定】また、児童の振り返りを踏まえ、授業において児童とともに必要感ある課題を設定したり、児童が主体的に課題を設けたりする場を設定していく。【各単元において実施】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率が高い。 ＜指導上の課題＞ 児童が自己表現する時間を授業中に確保していくことが大切である。	⇒ 児童が活動中に共同編集をする時間を設けたり、協働的な学びを通して考えたり表現したりする場を多く持つことで自己の考えを深めさせていく。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、6年生でR6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は96%を超えて、積極的に課題に取り組むことができた。
思考・判断・表現	B	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問項目では、6年生でR6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は94%を超えて、持続的な学習スタイルの定着がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の主語・述語の関係をつめる問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語についての理解はできているが、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。	
思考・判断・表現	算数の「図形」領域において課題がみられた。図形の形に合わせた面積を求める問題や見取り図について辺や面を正しく選ぶ問題では理解が不十分であると考えられる。また、速度を求める問題やそのわけを記述する問題については問題の意味の理解が不十分であると考えられる。	

- 結果分析(管理職・学年主任等)
- 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	自己の振り返りの時間を確保することで、自ら考え、目標を達成していく時間が減ってしまったことで、書くことや読むことの力があまり伸びなかった。小4の話すこと・聞くことでは市の平均を上回ったが、それ以外の力の伸びが少なかった。	
思考・判断・表現	学習の仕方は、身に付いてきているが、より深く調べたり、考えたりする時間が少なかった。また、自分の学習への意欲のめたせ方が足りなかった。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	自己の振り返りができる時間を設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	自己の振り返りの時間の確保をきちんと行うようにするとともに、自分で主語述語を意識しながら文を書く時間を増やしていく。
思考・判断・表現	B	児童が思考したプロセスに対して、コメントできないときはリアクション機能を使って評価できるようにしたことと意欲が高まった。	児童が作品・レポート等に取り組む際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントまたはリアクションを付記して、評価する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西浦和小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実する必要がある。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。	⇒ 授業の最初に前時の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する。【毎時間】 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりが課題に合った学習を進めていくための指導・支援を行う。【週に1度】 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を確認する。【1か月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。児童が自己表現する時間を授業中に確保することが必要である。	⇒ 話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行う。また評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りを充実させる【毎時間】。ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う【毎時間】。

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

① 結果分析(管理職・学年主任等)
② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)